

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和7年6月20日 ※1

(前回公表年月日: 令和6年7月25日)

職業実践専門課程の基本情報について

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入</p> <p>・学校独自の奨学金制度: 有 各学科在校生の中での卒業年次への進学が確定しており、年次の学業成績において特に優秀な成績を修めた学生に対し特待生として卒業年次の学費を減免する。</p> <p>・授業料等減免制度: 有 ①総合型選抜枠で合格した者に対し、10万円の授業料免除。 ②学校推薦型選抜枠に合格した者に対し、10万円の授業料免除。</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 0 受審年月: 0 評価結果を掲載したホームページURL: 0</p>
当該学科のホームページURL	URL: http://www.niia.ac.jp/

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

「実学重視」をすべての学科における教育の基本と位置付けている。それを実現するため、時代の変化に的確に対応し、航空業界の発展に貢献する人材育成を目指し、関連する業界団体や企業の担当者との組織的な交流を通して、常に教育課程の改善を図ることを基本方針とする。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、職業実践専門課程に求められる企業・業界団体等との密接かつ組織的な連携体制を確保して、授業科目の開設等の教育課程の編成に関する提案を行い、その提案を基に審議する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年6月9日現在

名 前	所 属	任期	種別
大政 一幸	公益財団法人 日本航空技術協会	令和5年11月8日～ 令和7年11月30日	①
櫻井 大輔	株式会社 JALエンジニアリング	令和6年8月1日～ 令和8年8月31日	③
佐々木 孝明	多摩川スカイプレシジョン株式会社	令和5年6月21日～ 令和7年6月30日	③
霜村 路	株式会社 IHI 航空・宇宙・防衛事業領域	令和7年6月3日～ 令和9年6月30日	③
森北 美行	成田国際航空専門学校		—
藤井 伸一	成田国際航空専門学校		—
河野 泰明	成田国際航空専門学校		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月6日 14:00～16:00

第2回 令和7年2月13日 14:00～15:20

0

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

* R7年2/13日開催の委員会で出された意見を中心に記載。

①:来年度の入学予定者数の説明で16名が受験、選考を実施し最終的に入学者は11名とのこと、具体的にどのような選考を実施したのか?

～実際の面接での学生の態度、その他適性検査も実施した。二運整という資格を取得する上で、合格するための最低の知識というところで、その必要性から適正検査を実施している。その結果も踏まえ、合格・不合格を決めている。

②:『一名の学生が二等航空運航整備士の試験を体調不良で受験できなかった』とあるが、その要因は?

～精神的なプレッシャーがあり、試験に向かうことに対して体調を崩してしまった。今回の事例を参考に継続した個別対応を行って行く。

③:学校に入学するときに未来を見据えて、企業の現場を見せて『そこに向かうために学校に入ります』というところを保護者の方にも納得したうえで入学するようなイベントを学校として計画しては如何か。、資格取得も含め、本人のモチベーションが本人だけのものじゃなくなるのではないかと考える。

～色々な企業さんと関わる事案でもあり検討したい。

④:就活に関して、最近「グランドサポート」は入学生が増えているが整備は増えないと話があったが、そこは何か違ったものはあるのか?

～一番大きいのは「資格の取得」と考える。学校だけではなく、社会に出てからも勉強しなければならない」という部分でグランドサポートと整備の学生にとって大きな違いがあると考える。やはり「整備は難しい」というイメージがあると広報が学生の意見として聞いている。これから広報との連携の中で取組みを考えて行かなければならない。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・日々進化する航空機整備の最新技術を授業に取り入れ、航空機整備に関連する知識とスキルの習得と興味関心の喚起を目的とする。
- ・航空業界の最新動向や求められる人材像等について企業等と連携して、日頃の学習内容の理解を深めると共に、社会人意識の涵養を目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

令和6年度はコロナ禍が落ち着いたことから連携企業の協力をいただき、4社・5回(6日間)開催することが出来た。

- ① 令和6年9月20日 株式会社IHI航空宇宙防衛事業領域 瑞穂工場トレーニングセンターにて以下を実施し、
航空機用タービンエンジン生産現場での基礎知識と基本技術を習得した。

(1)全体説明: 6つの主要生産拠点の概要、安全に関する注意事項

(2)組立実習: ツイスターによるセフティーワイヤのかけ方、セフティーケーブルのかけ方

(3)修理実習

- ・ニューマティックハンマーによるリペッティング・スクイザーによるリペッティング・最新のヘリコイル(タング無し)挿入・取外し
- ～感想: 未経験の作業を体験でき、何よりもエンジンを身近に感じることができるトレーニングセンターで、講師の方々のスキルの高さ、安全意識、生産性を考慮した作業等、気づきに溢れる実習だった。

評価: 今年度は工場で現場作業を体験出来、学生の学ぼうとする意欲が現れており、知見を深めたと感じた。

- ・学内実習で使用しない工具を使用し、作業を体感でき勉強になったのではないかと思う。

　　学生の質問の回答を実機を見ながらできたのでより理解が深まったと思う。

・セフティーワイヤーの基本がしっかりと身についており驚かされた。

- ② 令和6年11月22日 多摩川スカイプレシジョン(株)にて、非破壊検査、表面処理等の特殊工程に関する知識の深化と現場を体験した。

(1) 非破壊検査実習: 蛍光浸透探傷検査

(2) 表面処理実習: ショットピーニング等

- ～感想: 蛍光浸透探傷検査について、品質管理された施設設備、各工程及び時間管理の重要性と、検査には豊富な経験を要することが理解
- 出来た。又、学生自身が作成したテストピースで検査出来た事は、検査の重要性、不具合を発見する事の難しさを体験で出来た。

～評価: 今回も生徒さん自ら作製したテストピースを用いて体験する事で、蛍光浸透探傷検査への関心を高く持てたように感じた。

　　限られた時間の中でショットピーニングの原理原則をあまり説明することができなかつたが、作業ではある程度の技量が必要なショットピーニングで初めてながらもよく出来ていた。

- ③ 令和6年11月7日、8日: 全日本空輸株式会社 整備センター主催の研修に参加。航空機の整備現場、施設設備の見学を通して大型機の整備概要を学習。(2年生対象)

・羽田: Blue Baseにて安全教育センター見学、各種部品の取り付/取外実習

・成田: ラインメンテナンスにて運航整備作業見学、ハンガー見学

- ～羽田Blue Baseで実施された部品の取り付/取外作業の実習では、不具合報告があった部分の作業で完了させるのではなく、それ以外の箇所についても確認を実施し、その後の作業工程で不具合が発生しないように心掛ける整備士マインドをご教示頂いた。
- 成田でのランプ内の運航整備見学では、お客様を安全に目的地までお届けする仕事を見学できたことは安全運航と定時性に対する意識の啓発に繋がった。又、安全教育センター見学ではアサーション活動を通して、情報共有、職場の雰囲気作りに取り組む姿勢を学ぶことが出来た。

- ④ 令和6年6月7日: 株式会社JALエンジニアリングにて、航空機・エンジン・装備品の各整備現場、施設設備の見学を通して大型機の整備概要を学習(1年生対象)

～一年生は入学以来三か月、学校の授業では教官の説明や一部の教材のみで航空機について学んできたが、まさに

百聞は一見に如かずの言葉通り、本研修で生きた教材に触れることがでて一気に理解が深まつたものと思われる。

特にショッピングでの整然とした整備環境の中で部品や器材類の徹底した管理体制を目にしたことは学生にとって身の引き締まるもので印象深く、今後の学習にとても役立つものであった。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
発動機実習 (タービンエンジン)	株式会社IHI航空宇宙防衛事業領域 瑞穂工場トレーニングセンターにて航空機用タービンエンジン生産現場での基礎知識と基本技術を習得した。	株式会社 IHI
表面処理・非破壊検査 (2年生対象)	表面処理、非破壊検査等の特殊工程に関する知識の深化と現場を体験	多摩川スカイプレシジョン(株)
機体整備実習 (2年生対象)	整備センター主催の研修に参加。航空機の整備現場、施設設備の見学を通して大型機の整備概要を学習。	全日本空輸株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 ・連携企業への研修の積極的参加と業界企業との連携にて、最新の航空業界動向や情報を把握し、授業や実習に反映させる。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 航空安全シンポジウム 連携企業等: 日本航空技術協会 期間: R7年2月28日 対象: 教員1名 内容 「国土交通省 航空局による講演」「次世代航空機の開発」その他2講演		
研修名: ATEC(航空輸送技術教育センター)主催講演 連携企業等: 航空輸送技術協研究センター 期間: R6年8月9日 対象: 教員8名 内容 CBTA(Competency Based Training and Assessment)について		
研修名: 航空整備学科教員研修 連携企業等: 全日本空輸株式会社 期間: R6年8月30日 対象: 教員9名 内容 ANA Blue Base及びANA グループ安全教育センターの施設見学により実務知識の習得、指導力等の習得・向上を図る。		
研修名: 多摩川スカイプレシジョン株式会社に於ける企業研修 連携企業等: 多摩川スカイプレシジョン株式会社 期間: R6年11月22日 対象: 教員2名 内容 企業研修で学生の引率時に、最新の基本技術の実態、作業管理体制の理解を深める。		
研修名: 株式会社JALエンジニアリング(成田・羽田)に於ける企業研修 連携企業等: 株式会社JALエンジニアリング 期間: R6年6月7日、R6年7月5日 対象: 教員4名 内容 企業研修で学生の引率により、航空機・エンジン・装備品整備の最新の実情を見聞し、日常教育に活かす。		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 株式会社IHI 瑞穂工場での実技講習 連携企業等: 株式会社IHI 期間: R6年9月30日 対象: 教員2名 内容 企業研修で学生の引率により、トレーニングセンターを見学し航空機用エンジン教育体制の知見を広めて教員の資質向上を図る。		
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 多摩川スカイプレシジョン株式会社に於ける企業研修 連携企業等: 多摩川スカイプレシジョン株式会社 期間: R7年11月 対象: 航空整備学科教員 内容 企業研修で学生の引率時に、最新の基本技術の実態、作業管理体制の理解を深める。		
研修名: 各種シンポジウム 連携企業等: 航空局、日本航空技術協会 期間: 令和7年度 対象: 航空整備学科教員 内容 航空局、日本航空技術協会、主催のシンポジウムに参加し、航空業界の最新状況、動向、最新技術、課題等の情報を入手することにより今後の授業に活かす。		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 全日本空輸株式会社に於ける企業研修 連携企業等: 全日本空輸株式会社 期間: R6年7月15日 対象: 航空整備学科教員 内容 企業研修で学生の引率により、航空機・装備品整備の最新の実情を見聞し、日常教育に活かす。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

委員会は、成田国際航空専門学校が「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいて行った自己評価をもとに学校評価を行うとともに、その評価結果を成田国際航空専門学校の教育活動の向上および学校運営の改善に生かすことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	評価項目は5項目設定している。概要は以下に記載。 ・教育理念、目的、育成人物像、職業教育の特色、学校の将来構想が明記されているか。 ・教育理念の周知状況。 ・学科に対応する業界に向けて方向づけられているか。
(2)学校運営	評価項目は8項目設定している。概要は以下に記載。 ・目的等に沿った運営方針、運営方針に沿った事業計画策定されているか。 ・運営組織や意思決定機能の明確化。 ・人事、給与に関する規程化、教務・財務等の意思決定システムは整備されているか。 ・教育活動等に関する情報公開、業務の効率化が図られているか。
(3)教育活動	評価項目は14項目設定している。概要は以下に記載。 ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。 ・教育到達レベルと学習時間の明確化、学科等のカリキュラムの体系化がされているか。 ・職業教育の視点に立ったカリキュラム、教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 ・企業・業界団体等との連携によるカリキュラムの作成・見直し等が行われているか。 ・実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか。 ・授業評価の実施と評価体制の有無、外部関係者からの評価を取り入れているか。 ・成績評価・進級・卒業判定の明確化、資格取得等に関する指導体制の明確化。 ・教員の確保に関する事項、職員の能力開発のための研修等に関する事項。
(4)学修成果	評価項目は5項目設定している。概要は以下に記載。 ・就職率の向上、資格取得率の向上に関する事項。 ・退学率の低減が図られているか。 ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。
(5)学生支援	評価項目は10項目設定している。概要は以下に記載。 ・進路、就職、学生相談、経済的な支援体制に関する事項。 ・健康管理を担う組織体制、課外活動、生活環境への支援体制に関する事項。 ・保護者との連携、卒業生への支援体制、教育環境に関する事。 ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。
(6)教育環境	評価項目は3項目設定している。概要は以下に記載。 ・施設、設備、実習施設の整備に関する事項。 ・インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ・防災に対する体制は整備されているか。
(7)学生の受け入れ募集	評価項目は3項目設定している。概要は以下に記載。 ・学生募集活動は、適正に行われているか。 ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ・学納金は妥当なものとなっているか。
(8)財務	評価項目は4項目設定している。概要は以下に記載。 ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。 ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ・財務について会計監査が適正に行われているか。 ・財務情報公開の体制整備はできているか。
(9)法令等の遵守	評価項目は4項目設定している。概要は以下に記載。 ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ・個人情報に關し、その保護のための対策がとられているか。 ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。 ・自己評価結果を公開しているか。
(10)社会貢献・地域貢献	評価項目は4項目設定している。概要は以下に記載。 ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。 ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。 ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。
(11)国際交流	設定なし。

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

* R6年6月19日開催(R5年度評価)

・「授業評価の実施・評価体制はあるか」に関して

総じてアンケート結果に対して、学校側の評価、傾向として見えてきたところ、今後何をやって行かないといけないのか？
 ～見えてきたものは対前年とあまり変わりはないが、学生がどのような思いで授業を受けているかが見えた。先生の黒板の使い方、
 声の大きさ、説明の仕方等、又カリキュラムの内容に対して、もう少し実習がしたい、説明だけでなく実物を見たほうが分かり易い等、
 教育に対する改善の意見があり、それぞれの先生方にフィードバックされている。今回は英語の授業に関して、昨年度(R5年度)から
 カリキュラムを変えた(途中から英検対応に変更)ことが影響し、『英語の授業時間が少ない』『もっと英語の授業を増やして欲しい』との
 アンケート意見が多かった。これらの意見も参考に、今年度(R6年度)から英語の授業時間を増やした。

・「資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか」に関して「英語の教育を見直している」とあるが、
 具体的な効果は生まれているのか？

～英検を実施することにより、受験する学生がはるかに増えた。以前は受験する学生は少なかったが、この学校を準会場としたことで
 検定料も安くなり、バスでの送迎もあることから大幅に増えた。成果としては検定に合格することであるが、まずは受験者数が増えれば
 一つのステップになり、効果があったと考える。

・「学生のボランティア活動を支援しているか」に対し、この地区のイベントは殆どが土・日に実施しているので、学生さんに依頼することは
 出来ない。今年のイベントも既に日にちが決まっていて、難しい状況。

～学科毎に我々だけで学校周りの清掃を検討している。タイアップは難しいが、出来ることから始めようと考えている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
大政 一幸	公益財団法人 日本航空技術協会	令和5年11月8日～ 令和7年11月30日	業界団体役員
赤松 奈穂子	株式会社 JALエンジニアリング	令和7年6月3日～ 令和9年6月30日	企業職員
霜村 路	株式会社 IHI航空・宇宙・防衛事業領域	令和7年6月3日～ 令和9年6月30日	企業職員
松本 幸広	株式会社 インテックス	令和6年6月1日～ 令和8年6月30日	企業職員
佐々木 孝明	多摩川スカイプレシジョン株式会社	令和5年6月1日～ 令和7年6月30日	企業職員
塚野 愛	株式会社 JALグランドサービス	令和7年6月3日～ 令和9年6月30日	企業職員
今井 達夫	取手市小堀地区 区長	令和7年6月3日～ 令和9年6月30日	区長
円城寺美紀子	成田国際航空専門学校 保護者代表	令和6年6月1日～ 令和8年6月30日	PTA
岡野 丈子	成田国際航空専門学校 保護者代表	令和6年6月1日～ 令和8年6月30日	PTA
高橋 幸之助	成田国際航空専門学校 卒業生代表	令和6年6月1日～ 令和8年6月30日	卒業生
新妻 侑弥	成田国際航空専門学校 卒業生代表	令和6年6月1日～ 令和8年6月30日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.niia.ac.jp/>

公表時期: 令和7年6月20日を予定

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿ったホームページによる情報公開に加えて、定期的な広報誌の送付などを通じて、本校の教育活動を積極的に伝える。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校案内—ご挨拶・学校概要
(2)各学科等の教育	学科・コース—学科・コースの紹介
(3)教職員	学校案内
(4)キャリア教育・実践的職業教育	職業実践専門課程について
(5)様々な教育活動・教育環境	学校案内—キャンパスライフ／写真で見る成田国際／動画で見る成田国
(6)学生の生活支援	学校案内—キャンパスライフ
(7)学生納付金・修学支援	入学案内—学費について
(8)学校の財務	学校財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.niia.ac.jp/>

公表時期: 令和7年6月20日を予定

授業科目等の概要

(工業専門課程航空整備学科 航空整備士コース) 航空整備士コース 1学年														
分類				授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法	場所	教員	企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技							
1	○			ホームルーム 就職指導	学生生活での一般的指導、就職活動に向けた対応につき学習する。	1 通	13		○			○	○	
2	○			一般教養 (SPI)	社会人として一般教養の基礎能力を高めると共に、就職試験に取り入れられている適正検査を事前に学習する。	1 後	11		○			○	○	
3	○			英会話	英会話能力と英検資格取得を目指し、航空機整備・関連業務に役立たせる。	1 通	30		○			○	○	
4	○			危険物取扱	航空整備業務関連する危険物取扱を学び、危険物乙4類の資格取得を目指す。	1 後	15		○			○	○	
5	○			航空基礎	航空機整備に関連する業務英語/基礎数学/基礎物理の各基本を習得する。	1 通	14		○			○	○	
6	○			航空法規	航空機整備業務に必要な航空法やその関連規則を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1 通	30		○			○	○	
7	○			航空力学	航空機の飛行に関する理論を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1 通	42		○			○	○	
8	○			機体構造	航空機の機体構造に関する理論や構造を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1 通	30		○			○	○	
9	○			システム	航空機システムに関する理論や構造を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1 通	30		○			○	○	
10	○			航空計器	航空機の計器関係装備品に関する理論や計器の構造を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1 通	30		○			○	○	
11	○			航空電子・電気基礎	航空機の電子・電気に関する理論を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1 通	44		○			○	○	

12	○	航空電子・電気装備	航空機装備品に関する理論や構造を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1 後	18		○			○	○	
13	○	航空機器・航空電気電子実習	航空機装備品に関する整備方法、整備現場を見学し、飛行部品に関する知識を習得する。	1 後	企 業 応 需				○	○	○	○
14	○	プロペラ	航空機用プロペラに関する理論や構造を学び、ピストン発動機、タービン発動機との関連知識を習得する。	1 通	30		○			○	○	
15	○	タービン発動機	航空機用発動機に関する理論や構造を学び、タービン発動機に関する知識を習得する。	1 通	50		○			○	○	
16	○	タービン発動機実習	航空機用発動機に関する整備方法、整備状況を見学し、タービン発動機に関する知識を習得する。	1 後	企 業 応 需		△		○	○	○	○
17	○	機体実習 I	航空機の機体構造／システム構造を実機にて確認し、飛行機に関する知識を習得する。	1 後	49				○	○	○	
18	○	機体実習	航空機の機体構造／システム構造・発動機・装備品を実機にて確認し、飛行機に関する知識を習得する。	1 通	企 業 応 需				○	○	○	○
19	○	電気実習	セスナ機の電源システムの知識習得と、構成部品・作動原理を習得する。	1 前	24				○	○	○	
20	○	整備に必要な技術 I	セスナ152及びセスナ172による基本構造、作動、地上取扱い、注意事項等の理解、整備士としての知識技能を習得する。	1 後	40				○	○	○	
21	○	整備の基本技術	航空機の基本技術を学び、航空機整備の基本の知識を習得する。	1 通	149		△		○	○	○	
22	○	整備の基本技術実習	基本技術のベンチ作業に於けるグラインダーおよびその付属設備の整備・保全・適正な作業管理の遂行を徹底して行う知識と技術を習得する。	1 後	企 業 応 需		△		○	○	○	○
23	○	審査・試験	航空機整備の基本技術や専門知識の試験を通じて、知識のレベルアップを計る。	1 通	44		○			○	○	

航空整備士コース 2学年

24	○	ホームルーム、就職指導	学生生活での一般的指導、就職に向けて、履歴書作成、面接対応シミュレーションを行う	2 通	15		○		○	○	
25	○	一般教養 (SPI)	社会人として一般教養の基礎能力を高めると共に、就職試験に取り入れられている適正検査を事前に学習する。	2 後	15		○		○	○	
26	○	英会話	外国人教師・兼任教師により英会話能力の向上と英検資格取得を目指し、航空機整備・関連業務に役立たせる。	2 通	30		○		○	○	
27	○	航空基礎	航空機整備に関連する業務英語の基本を習得する。	2 前	22		○		○	○	
28	○	機体実習Ⅱ	シャイアン機をベースに航空機の機体構造／システム構造を実機にて確認し、飛行機に関する知識を習得する。	2 前	91				○	○	○
29	○	シャイアン装備実習-ATA24Ⅱ	シャイアン機の電源システムの知識と構成部品、作動原理を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を習得する。	2 前	46				○	○	○
30	○	シャイアン装備実習-ATA22, 23, 34Ⅱ	シャイアン機の航空計器、航法システム、通信システム、A/P-F/Dの構成部品、作動原理を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を習得する。	2 後	59				○	○	○
31	○	シャイアン装備実習-ATA31, 33Ⅱ	シャイアン機の飛行計器類、航法計器類、機内/機外照明の構成部品、作動原理を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を習得する。	2 前	21				○	○	○
32	○	プロペラⅡ	シャイアン機に装備されているプロペラに作用する力や制御装置及び付属品、指示系統、プロペラ整備に関する知識を習得する。	2 後	29				○	○	○
33	○	タービン発動機実習Ⅱ	シャイアン機用タービン発動機とその関連システムの知識を習得する。	2 前	56				○	○	○
34	○	発動機実習	航空機用発動機に関する概論や構造を学び、タービン発動機に関する知識を習得する。	2 後	企業 応需		△		○	○	○
35	○	整備に必要な技術Ⅱ	シャイアン機の基本構造、作動、地上取扱い、注意事項等の理解、整備士としての知識技能を習得する。	2 前	47				○	○	○
36	○	整備の基本技術	航空機の基本技術を学び、航空機整備の基本の知識を習得する。	2 通	113		△		○	○	○
37	○	整備の基本技術実習	航空機に使用される多様な非金属材料の一つであるFRP複合材を用いた構造部材の製造工程における工程管理の重要性・必要性を認識すると共に、バリエーション豊富な作業実態を学習する。	2 後	企業 応需		△		○	○	○
38	○	審査・試験	航空機整備の基本技術や専門知識の試験を通じて、知識のレベルアップを計る。	2 通	23		○		○	○	

航空整備士コース 3学年

39	○	ホームルーム、就職指導	学生生活での一般的指導、就職に向けて、履歴書作成、面接対応シミュレーションを行う	3全	24		○		○	○	
40	○	一般教養(SPI)	社会人として一般教養の基礎能力を高めると共に、就職試験に取り入れられている適正検査を事前に学習する。	3前	6		○		○	○	
41	○	情報処理	Excel/Wordやその他関連するコンピュータの基礎を習得する。	3前	22		○		○	○	
42	○	航空基礎	航空機整備に関する業務英語の基本を習得する。	3前	16		○		○	○	
43	○	機体実習Ⅲ	シャイアン機をベースに航空機の機体構造／システム構造を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を定着させる。	2後 3前	110				○	○	○
44	○	シャイアン装備実習-ATA24Ⅲ	シャイアン機の電源システムの知識と構成部品、作動原理を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を定着させる。	3前	20				○	○	○
45	○	シャイアン装備実習-ATA22, 23, 34Ⅲ	シャイアン機の航空計器、航法システム、通信システム、A/P-F/Dの構成部品、作動原理を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を定着させる。	2後 3前	21				○	○	○
46	○	シャイアン装備実習-ATA31, 33Ⅲ	シャイアン機の飛行計器類、航法計器類、機内/機外照明の構成部品、作動原理を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を定着させる。	3後	14				○	○	○
47	○	プロペラⅢ	シャイアン機に装備されているプロペラに作用する力や制御装置及び付属品、指示系統、プロペラ整備に関する知識を定着させる。	3後	21				○	○	○
48	○	タービン発動機実習Ⅲ	シャイアン機用タービン発動機とその関連システムの知識を定着させる。	2後 3前	61				○	○	○
49	○	整備に必要な技術Ⅲ	シャイアン機の基本構造、作動、地上取扱い、注意事項等の理解、整備士としての知識技能を定着させる。	2後 3前	86				○	○	○
50	○	整備の基本技術	航空機の基本技術を学び、航空機整備の基本の知識を定着させる。	3前	133		△		○	○	○
51	○	審査・試験	航空機整備の基本技術や専門知識の試験を通じて、知識のレベルアップを計る。	3通	30		○		○	○	
合計				51 科目			2591 単位 (単位時間)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：授業時数の90%の出席及び全科目70点以上の成績にて卒業とする。		1学年の学期区分	前・後期
履修方法：授業科目の履修認定は、出席状況と日常の学習成果及び試験結果によ		1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上的方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。